

この記念論文集が上記の多くの方々の御協力を得て、このような浩瀚なものとなって上梓することができたのは、ひとえに先生の御人柄によるものである。

先生は大正一四年に神奈川県平塚市で御誕生になり、神奈川県立湘南中学校を経て、東京商科大学予科に進まれたのち、同学部で井藤半彌教授のゼミに学ばれ、「社会主義思想家ゾムバルト」という卒業論文を纏められた。昭和二三年に同学部を御卒業後、同大学院に進まれ、二四年四月から二九年三月まで同特別研究生を務められたのち、二九年六月に成城大学経済学部で財政学担当の専任講師として就任された。三二年四月に助教、三九年一〇月に教授に昇任され、研究教育活動に積極的に邁進・貢献をされる一方、四六年四月から五〇年三月まで教務部長、五六年四月から六〇年三月まで経済学部長を務められ、大学行政にも多大の尽力をされた。大学行政面では、教務部長として一般教育科目の充実に取り組まれる一方、経済学部長としてはカリキュラムの改革に従事されて大きな成果を挙げられ、大学そして経済学部の発展に寄与された。さらに、安藤良雄学長の病氣療養期間中は学長代行として大学行政の先頭に立たれた。

先生は、平成三年に刊行された著『公債政策思想の生成と展開』（千倉書房、平成三年）のほか、共著・共編著六編、訳書一編、共訳書二編を上梓され、また論文八八編（うち共同執筆二編）、翻訳一二編、共訳一二編、書評八編などの膨大な業績を挙げておられる。

これらの御業績については、その特色を述べる事が到底できないほどその論題は多岐に亘っている。ただ、一貫してドイツ財政理論を中心とした学説史研究に基礎をおき、歴史的視点を重視しつつ論考を纏めておられる点は驚嘆に値いするものがある。

先生は主著の「序」の冒頭で、「近代西欧世界における『公債政策思想の生成と展開』とを、一七世紀半ばの前期官房学のそれから筆を起し、今日まで学説の展開に即してあとづけようとするものである」と記しておられるが、このように主題に関して徹底的な文献精査を試みられること、また「その構想から完成までにおよそ四分の一世紀を要したことになる」と書かれていることに、先生の学風が如実に顕れているように思われる。先生は、この「テーマを暖めてきた期間だけからいえば、そう短いものであったとはいえない」と述べておられるが、こうした先生の構想の豊かさは、先生の恩師であられた井藤半彌先生から、発表論文についてすべて草稿段階からチェックを受けられ、修正につき許可が得られるまで「先生宅の座敷で対座して、先生からの矢つぎばやの質疑と教示を受ける数時間の緊張を」ずっと堅持されておられたことにもよるものであろう。

先生の御定年をもって経済学部が大正生まれの世代の方はおられなくなった。一つの時代が終わったかの感をもつ。経済学部も戦後生まれの教員が過半を占めるようになったが、先生におかれては今後一層の御健勝と学問の御精進の実られることを祈念するとともに、併せて経済学部のあるべき姿について今後とも大所高所の御助言をわれわれ後輩に賜うことができれば幸いである。

平成九年二月

経済学部長・経済学会長

村 本 孜